

後援：川崎市／川崎市教育委員会／川崎市社会福祉協議会

朝日新聞 横浜総局／神奈川新聞社／東京新聞 川崎支局／毎日新聞 横浜支局／読売新聞 川崎支局

東京都合唱連盟／ 川崎市合唱連盟／川崎市多摩区合唱連盟

JCD 日本合唱指揮者協会  「音楽のまち かわさき」推進協議会

Voice Space "NOVO"
登戸混声合唱団
the 59th concert

チャリティ No.37
**ひとひらのあい
コンサート**



2025年12月21日(日) 13:30 開演
川崎市多摩市民館 大ホール

ごあいさつ

師走の風が頬に冷たい季節、登戸混声合唱団が37回目のX'masチャリティーコンサートを開催します。当団は、今年9月に久しぶりに遠出して北海道・北見でコンサートを開き沢山の喜びと思い出を作りました。本日の第IVステージでは、我国作曲界の重鎮、鈴木憲夫先生の書き下ろし新作・曲集「永遠の一日」を初演する事となり誠に光栄に思っております。その3曲めの作詩は、団長・渡部信子氏に依るものです。そして今年のゲスト小栗久美子さんの「トルン」演奏も多に楽しみます。

毎年皆様から頂いてまいりました募金は565万円に達し、川崎市の社会福祉や東日本大震災への寄付等に役立たせて頂いています事をご報告致します。年の瀬のお忙しい中、ご来場頂きました皆様には心より感謝申し上げます。年の瀬のひとつき、どうぞごゆっくりお楽しみ下さい。

2025年12月 登戸混声合唱団 常任指揮者 片野秀俊

～ オホーツクでハーモニーを ～

9月、北海道北見市のオホーツク混声合唱団・北見男声合唱団とのジョイントコンサートで盛会裡に終えました。打ち上げ、オホーツクビールファクトリーでのいきのいい生ビールの味は格別でした。

第IIステージでは、北見で演奏した、「心の四季」から4曲、第IVステージで演奏する、混声合唱曲集「永遠の一日」は、今年9月にカワイ出版より出版され今日のコンサートが国内初演です。

登戸混声が、2021年鈴木憲夫先生に作曲を委嘱した「かたわらに」が三曲目に入っており、「永遠の一日」として、作曲家ご自身作詞の曲や、朝ドラ『アンパン』でもとりあげられた、やなせたかしさんの詩と同じ曲集に入れて頂けたことは光栄の極みです。

本日はお忙しい中、ご来場、まことにありがとうございます。団員一同、御礼申し上げます。

2025年12月21日 登戸混声合唱団 団長 渡部信子・団員一同

片野秀俊 (かたの ひでとし)



福島県いわき市出身。東京声楽音楽学校(現昭和音楽大学)卒業。プロ合唱団・日本合唱協会にて1970年から1984年までBass歌手、ソリスト、コンサートマスター。長年にわたり音楽監督山田一雄氏の薫陶を受け、1985年第68回定期演奏会にて指揮者デビューし日曜主宰・正指揮者に就任。同団を率いて全国各地で演奏活動を行う。海外ではNYカーネギーホールをはじめ14カ国、20都市で演奏し高評を得る。NHKラジオ「みんなのコーラス」レギュラー解説者、NHK TV「名曲アルバム」他多数出演。「教育音楽」等、音楽雑誌への執筆をする一方、アマチュア合唱団の育成にも力を注いでいる。また、日本ニューフィルハーモニー管弦楽団、Tokyo Philharmonic管弦楽団等、オーケストラの指揮も多い。NHK全国音楽コンクール、全日本合唱コンクール審査員。日本演奏連盟会員。全日本合唱連盟常務理事。東京都合唱連盟顧問。多摩区合唱連盟理事長。

指揮法を山田一雄、ヘルムート・リリング、山本直純、荒谷俊治、飯守泰次郎、若杉弘、演奏法を平井康三郎、清水脩、声楽を下八川圭祐、芳野靖夫他各氏に師事。

女声合唱曲集「四季」を編る「J」郷愁によせて」監修・出版。「ふるさはとも変わらず」(作詩・作曲 新沼謙治)-混声・女声合唱版を編曲出版。「見上げてごらん夜の星を」(作詩・永六輔・作曲・いずみたく)を編曲出版。

二宮佑子 (にのみや ゆきこ)



桐朋女子高等学校音楽科を経て、桐朋学園大学ピアノ専攻卒業。バリ地方音楽院コンサートリスト課程修了。スクリャービン国際ピアノコンクール(フランス)第3位、大阪国際音楽コンクール第3位、イル・ド・フランス国際コンクールオアナ特別賞、第49回日仏文化協会=関西主催フランス音楽コンクール第3位及び山田忍賞、2019年アーチ・エンタテインメント主催MUSIC VOTE第1位、2024年GOLD STAR国際音楽コンクール(マレーシア)第2位など、国内外のコンクールで入賞。チェコ共和国にてソリストとしてBohuslav Martinu管弦楽団と共演。

2019年ピアノ・デュオPiano Pampleを結成、ODIN国際音楽コンクールピアノ連弾部門第2位を受賞。2021年1月にT-TOC RECORDSより世界初録音の交響曲を収録したCD「Organ Hero」をメジャーリリース(優秀録音盤)。2025年多摩区PRアンバサダーに就任。

これまでにピアノを山田富士子氏、ビエール・レアク氏、ジェローム・グランジョン氏に、フォルテピアノをパトリック・コエン氏に、室内楽をマリ＝フランス・ジレ氏に、作曲を金子仁美氏に師事。

登戸混声合唱団 (50音順)



◆ソプラノ	大平雅子	加藤由貴子	島田恵子	須山久美子	長沼菰江	花鳥佳子
◆アルト	濱野とも子	平原みち子	室内真紀	森 慈恵	吉本幸子	渡部信子
◆テノール	高田昌子	中村純子	中山寿美子	古本真理子	松本寛子	和田靖子
◆バス	小口武人	釜我利彦	高松詔一	西田 誠	山田多美枝	
	今村勝行	小野博茂	土井千明	日野杉勉	古谷修一	細野文夫
	諸石光太郎					

プログラム

指揮とお話 片野秀俊

ピアノ 二宮佑己子

I. アカペラの響き

Salve Regina

グレゴリア聖歌

Sicut cervus

G.P.da.Palestrina

II. 混声合唱組曲「心の四季」より

1 風が 2 みずすまし 4 山が 6 雪の日に

作詩:吉野 弘 作曲:高田三郎

III. ゲスト演奏 小栗久美子 トルン(ベトナム竹琴)

泉のトルン

作曲:ニヤット・ライ&チャン・ダン

お星さまメドレー

剣の舞

作曲:ハチャトゥリアン



休憩



IV. 混声合唱曲集「永遠の一日」

えいえん

鈴木憲夫 作曲

1. 五月の森で

やなせ たかし 詩

2. 昼の月

坂村真民 詩

3. かたわらに

渡部信子 詩

4. 縁(えん)

鈴木憲夫 詩

5. 永遠の一日 [朗読] 片野秀俊

鈴木憲夫 詩

♪ みんなで歌いましょう

川崎市民の歌「好きです かわさき 愛の街」

作詞:肥後義子 補作:石本美由起
作曲:山本直純

V. たのしいクリスマスソング (一般参加の方と一緒に歌います)

メサイアより HALLELUJAH

作曲:G.F.Händel

さやかに星はきらめき

作曲:Adolphe Charles Adam 編曲:編集委員会

Amazing Grace

イギリス民謡 編曲:片野秀俊

Ave Maria

作曲:カッチーニ 編曲:kininabe

Gingle Bells

作曲:J.ピエールポント 編曲:片野秀俊

聖 夜

訳詞:由木 康 作曲:F.Gruber

ゲスト演奏：小栗久美子（おぐり くみこ） トルン(ベトナム竹琴)



東京外国語大学ベトナム語学科卒。同大学大学院修了。ベトナムでトルン(ベトナム竹琴)の研究及び実技を学ぶ。

マリンバを北原千鳥氏に、トルンをマイ・ティ・ライ、ドー・ロック、グエン・トゥ・ツイ各氏に師事。

ベトナムより帰国後、日本各地で演奏活動を展開。ベトナムからの国賓来日の際や、皇族の御前でも度々独奏を披露し、メディアでも多数紹介されている。大学での講義やサークル指導、日本初のトルンアンサンブルグループを発足するなど、トルンの指導も精力的に行っている。

これまでに3枚のアルバムをリリース。o.g.music主宰。

♪ クリスマスソング一般参加 ♪ (50音順)

小野 剛 柏崎万里子 片山三枝子 北嶋富美子 清水政子 鈴木ひろみ
高橋久美子 滝澤 有祈 友永 朗 中沢筑紫 錦織洋子 長谷部良枝
福田真弓 宮地みゆき 柳澤麻里子 山下真由美

◆ステージマネージャー 佐藤尚之

♪ 登戸混声合唱団 合宿：三浦海岸 根本荘 2025. 11 ♪



このコンサートには、心身に障害を持った方々をご招待しております。どうぞご理解、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

昨年の募金は、158,201円をいただきました。これまでの募金の累計は、5,650,264円となりました。

皆様からいただいた拠金は毎年この欄でご報告させていただいております。本当にありがとうございます。

Voice Space “NOVO”

登戸混声合唱団

団員募集中 連絡先：080-5097-2362 渡部

ホームページ：検索【登戸混声】

1 風 が

風が桜の花びらを散らす
 春がそれだけ弱まってくる
 ひとひらひとひら舞い落ちるたびに
 ー 人は 見えない時間に吹かれている

光が葡萄の丸い頬をみがく
 夏がそれだけ輝きを増す
 内に床しい味わいを湛え
 ー 人は 見えない時間にみがかれている

雨が銀杏の金の葉を落とす
 秋がそれだけ遠き通ってくる
 うすいレースの糸を抜かれて
 ー

雪がすべてを真白に包む
 冬がそれだけ汚れやすくなる
 汚れを包もうと また雪が降る
 ー 私は 見えない時間に包まれている

2 みずすまし

一滴の水銀のような みずすまし
 やや重く 水の面を凹ませて
 浮いている 泳いでいる
 そして 時折 水にもぐる

あれは 暗示的なこと
 浮くだけでなく もぐること

わたしたちは
 日常という名の 水の面に生きている
 浮いている だが もぐらない
 もぐれない ー 日常は分厚い

水にもぐった みずすまし
 その深さは わずかでも
 水の阻みに出会う答
 身体を締めつけ 押し返す
 水の力に出会う答

生きる力を さりげなく
 水の中から持ち帰る
 つぶらな可憐な みずすまし
 水の面に したためる
 不思議な文字は 何と読むのか？

みずすまし ー
 あなたが死ぬと
 水はその力をゆるめ
 むくろを黙って抱きとって
 くれる
 静かな静かな 水底へ
 それは 水のやさしさ
 みずすましには知らせない
 水のやさしさ

4 山 が

山が 遠くから
 人の心を とりこにする

人が その心を
 さがしにゆく

それで
 身体ごと とりこになる

6 雪の日に

雪がはげしく ふりつづける
 雪の白さを こらえながら

欺きやすい 雪の白さ
 誰もが信じる 雪の白さ
 信じられている雪は せつない

どこに 純白な心など あろう
 どこに 汚れぬ雪など あろう

雪がはげしく ふりつづける
 うわべの白さで 輝きながら
 うわべの白さを こらえながら

雪は 汚れぬものとして
 いつまでも白いものとして
 空の高みに生まれたのだ
 その悲しみを どうふらそう

雪はひとたび ふりはじめると
 あとからあとから ふりつづく
 雪の汚れを かくすため

純白を 花びらのように

かさねていつて
 あとから あとから かさねていつて
 雪の汚れを かくすのだ

雪がはげしく ふりつづける
 雪はおのれを どうしたら
 欺かないで生かされるだろう
 それが もはや
 みずからの手に負えなくなつて
 しまったかのように
 雪は はげしくふりつづける

雪の上に 雪が
 その上から 雪が
 たどえようのない 重さで
 音もなく かさなってゆく
 かさねられてゆく
 かさなってゆく かさねられてゆく

1 五月の森で

やなせたかし

私をにじませ
あなたをにじませ
ふたりを
にじませ
やさしげに
ふりそそぐ
そんな五月の
雨の森
ながれる緑に
つつまれて
樹々はつぶやき
私たちは
だまる
時間をにじませ
恋をにじませ
ふりしきる
五月の雨の中

3 かたわらに

渡部信子

かたわらに寄り添いでともに
歩きし君は今 [※]

東高根の森林の
太古の木々のしらかしに
祈りし君は いま彼方

生田の杜に春秋と
息子と語らう君の笑み
眠りし君は 遠くあり

重畳の日に彼方へと *
去りし君が見守りし
歌いつづける 我がいて

かたわらに寄り添いでともに
歩きし君は今

※ 作曲者により加重

* 五節句のひとつで九月九日のこと

永遠の一日

鈴木憲夫

二人で山寺に行ったのは
今からもう三十年も昔のこと
二人ともまだ学生だった

やがて二人は結婚をし
人生の大半を一緒に生きてきた

彼女がこの世を去ったその年の九月
私はひとりで三十年ぶりに
山寺を訪れた
あの日と同じ 雲ひとつない空の下で
多くの人が細い山道を登っていた
あの時の私たちのような
若いカップルも大勢いた

ここを訪れる人間の吐息ひとつひとつが
木々や石仏の記憶に宿り
ここは昔も今も何も変わらずに在るのだと
山が語る

三十年前のあの日
若さではち切れんばかりの
将来への希望と夢をもつて
昔と変わらぬ風景の中で
私たちは
きっと
きらきらと輝いていたことだろう

あの日
永遠の一日・・・
私たちの

2 昼の月

坂村真民

昼の月を見ると
母を思う
こちらが忘れていても
ちゃんと見守っていて
下さる
母を思う
かすかであるがゆえに

かえって心にしみる
昼の月よ

4 縁 (えん)

鈴木憲夫

あなたと前に
どこかで会ったことが
あるかもしれない

「袖すり合うも他生の縁」

またいつか
どこかで
あなたと
出会うことがあるかもしれない

それが今のわたし
今のあなたでなくとも

またいつかどこかで
めぐり会える

どこかで
きっと・・・